

広島会場

◆来場者①

私は現在、法学部3年生であり、大学卒業後の進路のひとつとして法科大学院を考えていたため、今回の「法科大学院が分かる会」に参加させていただきました。

私はこれまで予備試験ルートでの司法試験突破を特に考えていましたが、今回、在學生や法科大学院出身の実務家、教員の方々のお話を聞いていくなかで法科大学院に行くことで「ひとりではできない勉強」ができるということが分かり、法科大学院ルートに大変魅力を感じました。具体的には、①法文書作成や模擬裁判、臨床法務などの実務科目によって将来、自分が実務家として働く具体的なイメージをもつことができ、さらに実務に必要なスキルを養うことができる。②教員との双方向性があるため、分からないところや疑問に思ったところを質問できたり、自分が書いた答案などを添削してもらえたりする。③同じ目標をもつ仲間ができ、その仲間と切磋琢磨することができる。以上の3点は、独学もしくは予備校の利用だけで完全に代替するのは難しいのではないかと思います。そうだとすれば、2年ないし3年間、法科大学院で学ぶのとそうでないのとでは勉強の質や人脈という点において大きく差がひらく可能性があるため、法科大学院に行く意義は大いにあると思いました。

◆来場者②

私がまず興味があったのは裁判官についてだ。個人的に、裁判官は、法曹三者の中では最も世間と馴染みがなく、どこかかけ離れた存在であると感じていた。しかし、こうして身近で接することができ、その普段の生活などもいづらか知ることができたため、良い機会であった。今回参加したことで、これから法曹、またそれに先あたっての法科大学院を目指すにあたり、具体的な勉強の指針が見え、そのモチベーションも高まり、良い刺激になった。また、法科大学院に関して、大規模で司法試験合格率も高い上位の大学に比して、小規模でさほど合格率が高くない大学でも、その学生の少なさを活かして、教員と学生が密着して指導・教育を行えるというメリットがあるということを知ることができたことも、収穫の一つである。将来進学する法科大学院を選ぶにあたって、今までは、合格率や伝統ある大学・大学院かということに重きを置いていたが、今後は小規模の大学も視野に入れていくつもりだ。

東京会場 1

◆来場者①

各種報道で法科大学院についてネガティブな記述が目立っている中で、「わかる会」では、法科大学院についてどのような面が見られるのか、という点に特に興味を持って参加させていただきました。

まず、「わかる会」では、卒業生の方の話が印象的でした。法曹として必要な事案分析の能力、法律問題における思考能力、それを相手に伝えるコミュニケーション能力等が鍛えられることが法科大学院教育の長所としてあげられていました。コミュニケーション能力、というのに関連して、裁判官や検察官の先生が上司と意見が合わなかったときに、意見を戦わせてなぜ合わないかを理解しようとしめない人は法曹に向いていないと話をされていて、紙媒体に残らない部分でもとても大切な能力だと教えていただきました。

予備試験ルートとの比較は容易ではない問題ですが、上記の能力の鍛錬というのも踏まえ 2 年間、あるいは 3 年間ここで勉強した人間が社会に一定数排出されることはそれ自体が大きな価値を有していると感じました。また、法科大学院卒業生は法科大学院での教育に少なからず意義を有していると感じている方が多く、少なくとも若手の法曹関係者では同様の価値を感じている人は多いのではないかと思います。

また、法科大学院の苦境とあわせて報道のなされる法曹界全体の仕事が減少しているのではないかと、という点についても、実務に出て数年経つ方々に聞くことができました。その中で弁護士の先生方は多様な仕事をされていたのですが、多様な仕事をしている、というのは多様な仕事がある、というよりは何を仕事にしていくかを自分で考え、自分が先駆者となって道を作っていく先生が何人もいて、仕事について楽しそうに語っていただきました。もちろん法曹界全体としての仕事の量は個々の先生のお話ではわかりませんが、仕事の幅は決して狭くないと考えている先生が多いと思いました。

従来脱却すべき教育が覚えて吐き出す、というのに比較していえば、法科大学院で目指している、自分で考え、動き、それらを他者に伝え、他者の考えを引き出して自分で考え直していく、という法曹の足腰ともいえる部分の大切さを教えていただけた会だったと思います。

◆来場者②

家族の紹介でこの企画の存在を知り参加したのだが、とても有意義なものであった。この説明会は 2 部制であり、前半は法科大学院に現在在学している人や、院を卒業され法曹界で活躍されている方々のお話などを聞き、後半は各大学院の個別ブースが設けられ質疑応答ができるというものであった。

前半での院在生のお話の中では、院を志望するに至った理由、院での学生生活や学部と院の違いなど、院在生目線ならではの話を聞くことができ、それは現在学部2年生である私にとって最も聞きたいことであり、とても参考になった。

後半部では、進学を考えているいくつかの大学院の個別ブースにて、より詳細な話を聞くことができた。また最後には、前半でお話されていた裁判官、弁護士、検察官の方々と直接お話するというとても貴重な体験に恵まれた。そのとき、ただ仕事内容だけでなく、仕事をするうえで求められるものや体験談などを聞かせていただいた。これらの話は調べればわかるというものではなく、直接お話ししないと分からないものであり、そうした意味でも大変貴重な体験であった。院に進学することの意義、院を卒業した後の仕事についてなど様々なことがわかりとてもためになることばかりで、4時間があったという間に過ぎてしまった。

大阪会場

◆来場者①

私は友人に誘われて、この説明会に参加しました。元から弁護士志望だったこともあり、法科大学院の制度に関しては、自分であらかた調べたつもりでいました。しかし、現役で活躍されている法曹の方々から、実際に生の声を聴くことで、今までは見えなかった、法科大学院の新たな側面が浮き彫りになってきました。特に、大学院の同期生たちとは、お互いに切磋琢磨し合える仲間として、卒業後も関係が続いていくという点に魅力を感じました。今回伺ったお話は、将来の準備をするうえで、十分に参考になるものだったと思います。もし次回もこのような集いがあれば、また参加させていただきたいです。

◆来場者②

私が「法科大学院がわかる会」に参加しようと思った理由は、司法試験を受験するにあたり、通うであろう法科大学院について詳しく知りたかったからです。第1部では、法科大学院のどのような点が良いか知ることができました。特に、ただ法律についての知識を身に着けるだけでなく、人と関わり続けることで、人間観察ができ、弁護士になるにあたっての洞察力が身に付くというお話が興味深かったです。私は今まで法曹になるまでのことは考えても、なってからのことを深く考えていませんでした。今回のお話が、資格をとるだけでなく、どのように働くかを考えるきっかけになりました。

また、第2部、第3部では、検察官、弁護士、インハウスローヤーの方の実際の仕事を聞き、自分の未来像がより具体的になりました。特にインハウスローヤーについて知らなかったので、新しい情報を多く得ることができ充実した時間を過ごせました。

今回のお話で、法科大学院で何を身に着けられるか知るとともに、将来法曹になりたいという気持ちが強くなりました。良い経験ができたと思っています。

◆来場者③

「法科大学院がわかる会」には、学部卒業後の進路として法科大学院を検討しており、ロースクールでの学びについて詳しく知りたかったこと。また、法曹の方との懇親会でお話ができる機会をもてるという点に興味をもち、参加いたしました。

まず、1部では、ロースクール卒業生の若手弁護士の方のお話から、ロースクールでは、自分の考えや意見を出し、お互いに討論しながら勉強できたことが魅力で議論することが現在の仕事にも有益となっており、実務に直結する重要なことが学べたと教えていただきました。

次に2部で、法曹界で活躍している方々との懇談会では、法曹を志したきっかけ、ロースクールでの生活、さらに、現在の実務やキャリアについて直接質問もしながら詳しくお話を聞きました。3人の方と交流できました。私が得に興味を持っていた企業内弁護士という新しいフィールドでの多様な働き方も知ることができました。

最後に、3部は、市内の中堅の法律事務所見学でした。法廷以外ではなかなかイメージすることの難しい弁護士の先生がたの現場を案内していただきながらお仕事の体験談を聞かせていただきました。

全体を通じて感じたことは、自ら考え、判断し、それらの力で他者に関わっていくという法曹の仕事がロースクールの双方向型の授業で鍛えられた力が生かされていくのだと直接お話をするなかで感じました。また、弁護士の業務が思っていたよりかなり幅広い活躍の場が用意されていることもわかりました。

今回、ネットやパンフレットで調べるだけではわからない貴重な体験をさせていただき、これからの進路選択の参考になりました。ありがとうございました。

岡山会場

◆来場者①

私が本説明会に参加させていただいた理由は、検察官志望で学部三回生ということもあり、法科大学院について詳しく知っておきたいと思ったからです。本説明会では、岡山大学法科大学院の教育方針や卒業者の方々の活動状況について具体的な説明を受け、また、実務家の方々やコメンテーターの方々の貴重なお話を拝聴しました。特に、組織内弁護士の養

成や地域に根差した運営方針についてのお話は、臨場感があり、とても魅力的に感じました。その上、本説明会では、実務家の方々と直接お話をする機会をいただき、大学院生時の生活や学習について非常に興味深いお話を伺うことができました。今回伺ったお話は、今後自分の進路について考えるときの参考にさせていただこうと思います。

◆来場者②

私は、法科大学院と実務の話に関心があったため、この説明会に参加しました。

法科大学院については、先生方と生徒との距離が近く、少人数制のゼミが充実しているといった特色について生の声を聞くことができました。さらに、大学院生の学部時代の話聞き、生活スタイルや勉強の進捗状況について、今の自分と比較することで進学後の生活に向けて、気を引き締めるきっかけにもなりました。

実務については、紛争を未然に防ぐ組織内弁護士も魅力でしたし、その選択肢をとるのであれば、どの地域で働きたいのか明確にしておく必要があると感じました。また、弁護士になってからは、司法試験科目でない法律であっても紛争解決には欠かせないので、勉強を積んでいるという話が興味深く、そのようなことにも関心を持つようになりました。

今回、法科大学院や実務の話聞いたことでそれまで漠然としていた司法試験後の状況について、より具体的なイメージを持つことができたので、参加して良かったです。

◆来場者③

私が説明会に参加した理由は、志望するロースクールについて詳しく知りたいと思ったからでした。今回、説明をきいたロースクールの説明会には、以前に参加したこともありましたが、実際に岡山大学法科大学院の院生や卒業後、弁護士として活躍されている先生方の生の声がきけたのが大きな収穫でした。法科大学院を選択するにあたり、私自身が重要視しているのは、「環境」です。その「環境」の大部分は占めるのは、いっしょに勉強し切磋琢磨していく仲間だと思っています。どのような人がいるのかを知ることができたことは、今後の選択に大変役立ったと思います。一部では、院生や弁護士の先生方の座談会、二部では、実際にお話する機会があり、両方とても参考になることや、新たな発見があり、参加してよかったなと思っています。

東京会場 2

◆来場者①

今回一番強く感じたことは、ロースクールで学んだことは一生の財産になるということです。例えば、ロースクールで法律英語に馴染むことにより実務に出たときに抵抗なく取り組めること、学者の先生から理論を学ぶことにより困難な判例も理論から解釈できる力がつくこと、実務家の考え方を学ぶことにより新しい時代に求められることは何かを常に認識すること、ソクラテスメソッドによって問題を抽出する力を磨くこと、そして法曹界に入ったあとにも支え合える仲間と出会えるといったことです。六法をべらべらめくればわかることだけでなく、知識、思考回路、人脈など極めて広範囲においてロースクールでは鍛えることができるのです。私の周りではロースクール入学を念頭にはいれつつも、まずは予備試験合格を目指す人が多いです。それはおそらく早く働きたいという気持ちと親への負担を少しでも軽くしたいという気持ちからなのだと思います。また、ロースクールで知識、思考回路、人脈などこれからの職業人生において生きてくるものを多く得られるということを知らないという面もあると思います。大学四年間予備試験合格に向けて勉強を続け、卒業後すぐに修習へ行き法曹として活動するというのは確かにエリートコースだと思います。しかし学部の間は広い分野に関心を持ってさまざまな経験をし、ロースクールに進んで法曹としての素養を身につけてもいいのではないかと思います。むしろその方が当事者の状況や気持ちの汲める法曹になれるのではないのでしょうか。

次に、今回のイベントで法曹資格を持っていると広い可能性があるのだということを知りました。昨今苦勞して法曹資格を取得しても普通のサラリーマンより年収が少ないという悲しい話をよく耳にしますが、人々が権利に鈍感なだけで潜在的な法曹の需要は多くあり、今後新しい分野の開拓が進むことも大いに考えられるということです。また、スポーツや音楽、IT といった専門性を身につけ、法的なアドバイスをすることによってビジネスにおいても良き相談相手となれます。そして今もなお司法過疎地域に住む人は近くに有資格者が来ることを待ち望んでいます。更に、東京五輪に向けてますますグローバル化が進み複雑な社会になる日本において立法の分野でも法律の知識を持つ人は必要とされると思います。法曹資格を持っていれば自分次第でどのような分野とも繋がれ、その中枢部分で活躍できるということを感じました。

◆来場者②

私は知人の紹介で、このキャラバンの存在を知り、参加しました。

このキャラバンは今の法科大学院について詳しく知ることができ、また現役の法曹の方々と直接会って、話すことが出来たため、とても有意義なものでした。さまざまな大学の

法科大学院が参加していたため、それぞれの法科大学院の学習支援や内部の雰囲気などを比較することが出来、自分にあった法科大学院を探すことができました。

また、今回のキャラバンでは、法曹関係者に検察官、裁判官、弁護士が参加されており、特に弁護士の方々には企業内弁護士、任期付き公務員の方もいらっしゃり、一口に弁護士といっても、さまざまな職種があるのだと実感しました。今回のキャラバンでさまざまな法曹関係者の方の話聞くことが出来、自分のキャリアを考える際の広がりを持たせてもらったと感じました。

名古屋会場

◆来場者①

今回の法科大学院キャラバンで、法実務に携わる裁判官や弁護士の方からお話を聞いて良かったです。普通に大学生活を送っているだけでは、裁判官や弁護士の方のお話を聞くことがないので貴重な体験となりました。ただ、検察官の方がいらっしゃらず、検察官の方からお話を聞くことができなかったのが残念でした。今回のキャラバンで印象に残ったことは、法科大学院の魅力と弁護士の実情についての話でした。このキャラバンで話を聞くまで私は、司法試験予備校があるなら法科大学院に行かなくてもいいのではないかと思っていました。しかし、裁判官や弁護士の方から“司法試験予備校と違い、法科大学院は模擬裁判などのプログラムによって、法実務に役立つスキルを磨ける”というような法科大学院ならではの魅力についてのお話を聞くことで、法科大学院の有用性を知ることができたので良かったです。また、マスコミが報道しているような弁護士業界の現状は事実ではないということや、本当の弁護士業界の現状を知ることができたのも良かったです。

◆来場者②

私は、小学校高学年頃に見たドラマの影響で法曹を目指すことを決意しましたが、未だ漠然とした気持ちのまま、法学部に進学してしまいました。そこで今回、この「法科大学院がわかる会」で法科大学院で実際に学んだ方々の話を聞いて、自分の法曹への志を確固たるものにしたいと考え、この会に参加しました。

実際に参加してみて、法科大学院を卒業した後、弁護士として働いていらっしゃる上松先生と松田先生のお話は、現在自分が抱えていた勉強についての不安などを取り除いてくれました。また、第二部での個別懇談会では、それぞれの法科大学院について特色やカリキュラムなどの説明を受け、一つの選択肢として名大以外の法科大学院への進学も考えるようになりました。

やはり、予備試験からの合格率の低さを聞くと、法科大学院への進学が法曹へ進むためには最善だと考えられるので、学部一年生である今のうちからしっかりと勉強をして自分の夢への足がかりにしていきたいと思いました。

今回、この講演会に参加したことは私にとって、とても大きなメリットになったと思います。もし次に参加する機会があれば、私の志望が検事であるため、検察官の方のお話もあるといいと思いました。

札幌会場

◆来場者①

第一部では、法曹として実際に働いている方々の生の声が聞けたことが非常に貴重だった。自分は学部生であるため、そのような機会は少なく、特に裁判官の方の話を聞くことは初めてだった。自分は、参加しようと思った理由の一つとして、裁判官の方の話を聞けるということがあったし、これはほかの学部生にとってもこの会の魅力的な点の一つとしてとらえられていたと思う。

また、裁判官・検察官・弁護士それぞれの立場を比較できるような形式で話が進められていたため、自分はどこを目指したいか、どんな点が自分にとって魅力的であるかが考えやすかった。

さらに、司法修習時代の話は、本やインターネットなどで調べてもわからないような、突っ込んだ内容だったので、その点でも参加して良かったと思った。

第二部では、実際の法科大学院の雰囲気が感じられたことが良かった。特に、憲法の体験授業では、学部と大学院との違いを強調してくれたため、自分がやりたい内容であるかが考えやすかった。

また、元大学院生の方が生徒役で授業に参加していたことは、実際の空気を想像しやすくし、自分がそれについていくためには、どれだけ勉強しなければならないか、ということも考えることができ、とても良かった。

◆来場者②

将来は検察官になりたいと思っているが、学部では弁護士にお会いすることはあっても、現役の検察官の話が伺える機会はないので今回のキャラバンを楽しみにしていた。

前半は法曹三者の方に、一日のスケジュールなどを質問形式でお聞きした。皆さん法曹になったきっかけに、転勤が嫌だったなどユーモアある理由を挙げていたのが印象的だった。私も漠然な憧れだけを追い求め、自分に法曹の適性があるかなど全く考えずに入学したの

で、実際に法曹になった方でも似たような動機だったというのは安心感がある。専門科目が始まって半年以上経ったが、今のところ向いていないことはなさそうなので、とりあえず勉強を進めようと思った。また、検察官と弁護士の比較を給与面も含めてしてくださったのは興味深かった。

後半は法科大学院の模擬授業を体験した。学部の授業では話を聞いてノートをとる毎日だが、大学院では学生に意見が求められる機会が圧倒的に増えることが分かった。大学生は友達のおしゃべりでは頭の回転も速く言葉も次々に出てくるのだが、議論となると何を話せばいいのか分からず急におとなしくなる傾向があると思う。しかし、それでは法曹になったときに依頼人と上手くコミュニケーションが取れず、裁判でも相手に言い負かされてしまうだろう。学部の段階から論理的に物事を考え、それを相手に効果的に伝えるスキルを身に付けておく必要を感じた。その為に、現在友人と行っている自主ゼミにさらに力を入れていこうと思う。もちろん、論理的な思考はそれを裏付ける確かな知識があってこそであり、インプットもおろそかにはできない。

司法試験は大学受験までとは違い、受験者の絶対数が少ないためにイメージが湧かず、求められているものも分かりにくい。今回のような情報提供の場を設けて頂くことはモチベーションの向上に役立って効果的だと思う。

◆来訪者③

私は現在法曹志望であるが、進路を悩んでいるので、今回、現役の弁護士、検察官、裁判官の方々からお話を聞くことができ、進路を決める上でとても参考になった。弁護士と検察、裁判所のそれぞれの組織形態の違いや司法修習同期たちのつながりなど、難しい話だけではなく、身近なお話もしていただき、法曹三者の比較ができるとともに、各々の仕事を少し身近に感じる事ができた。特に、私は裁判所で働きたいという思いが強いので、転勤は旅行だと思って地域の一番楽しそうなことをやるといったことや、上司部下関係のような明確な上下関係はない、といったことを聞くことができ参考になった。また、質問形式の講義であったため、先生方の掛け合いや冗談を交えた会話を聞いていて、法曹三者の間に壁がなく、なごやかな雰囲気伝わってきて、今まで法曹三者の交流はそれほどないと思っていたので、こんなに仲がよいのかと意外だった。さらに、先生方の志望理由について、司法修習時代に決めた方が多いことに驚いた。個人的には、まず弁護士になりたいというような思いがあって、それになるために司法試験を受ける人が多いと思っていたので、もう少しやわらかく考えていいのだと気づいた。お話を聞いて、将来やることの具体的なイメージを持つことができ、ますます法曹に対する憧れが強くなった。

後半では、前半とはうって変わって引き締まった雰囲気での模擬講義だった。内容はやはり難しいものであったが、ロースクールの授業を実際にうけて、当然だがほとんど分からなかったもので、まだまだ勉強しなくてはならないと思った。ロースクールの授業は確かに難し

いのだが、実際に法律がどのように使われているかを学び、その使い方がある程度身に付けることができるものであると思うので、とても面白そうだと感じた。

個人的には前半のほうが面白かった。質問形式で行ったのが特によかったので、今後も続けていただきたいと思う。全体としては、学ぶことが多くとても充実した内容であった。